

新潟県視覚障害者情報センター事業推進懇談会記録

- 1 日時 令和元年11月15日(金) 13時30分～15時35分
- 2 場所 新潟ふれ愛プラザ研修室(新潟市江南区亀田向陽1-9-1)
- 3 出席者

構成員

(1) 利用者

新潟県視覚障害者福祉協会	会員	吉田 浩
新潟県中途視覚障害者連絡会	会員	斉藤 俊雄
新潟県視覚障害者友好協議会	会員	石田 浩子
センター利用者		早川 明良

(2) 関係機関

新潟県立新潟盲学校校長	南 誠
NPO 法人障害者自立支援センターオアシス	小島 紀代子

(3) 行政機関

新潟県福祉保健部 障害福祉課	施設管理係長	高橋 美穂
----------------	--------	-------

(4) ボランティア

点訳ボランティア	杉原 真之
音訳ボランティア	丸山 昭生

事務局

新潟県視覚障害者福祉協会	副理事長	栗川 治
〃	常務理事	事務局長 関川 憲司
新潟県視覚障害者情報センター	所長	斎藤 義樹
〃	次長	狩野みさと
〃	指導員	山口 史明
〃	指導員	石原優芽乃

(欠席者)

新潟県立図書館副館長	平田ひろみ
------------	-------

4 討議 進め方、資料の確認、座長指名

・情報センターのあるべき姿

1 平成30年度事業実績概要

【質問】

- ・利用登録者数の推移のグラフで平成28年度まではゆるやかな増となっているが、1度登録したら期限があるのか。更新手続きは必要なのか。(事務局) 更新手続きは不要で定期的に確認等を行っている。年齢層が高く、新規は横ばいだが亡くなって行く方が多い。

【意見・要望】

- ・登録者数、人口も減少でどんどこでも頭打ち状態。センターとして質の向上、ニーズの掘り起こしを積極的に行ってもらいたい。

2 利用者サービスに関すること

【質問】

- ・新しいプレクストークでCDの出し入れに苦勞していないのか。(事務局) CDの扱いは確かに不便になった。広報誌であるメールにいがたでCDの扱い方等をお知らせしていきたい。
- ・SDカードでの貸出等は考えていないのか。(事務局) 一般での貸出では行っていないが、依頼により転送のサービスを行ったことがある。

【意見・要望】

- ・音声デিজィーでタイトル毎にすっきり抜け落ちているものがあつた。確認して防ぐようにしてもらいたい。(事務局) 公に貸し出すものは必ず校正を行っている。内容に問題か、再生上のエラーなのか。CD-RWを再利用しているので音飛びもあるかと思う。音は前後で確認するが人手をかけて行うので限界はある。雑誌のCDについては週間、月間の括りで更新して行きたい。またメールにいがたの中でCDの不具合時の対応等についてお知らせしたい。
- ・SDカードでのサービスについて、容量が大きいので30~40タイトルが入る。たとえば人気のある作家の全集をSDカードで送ってもらえれば助かる。利用が減っているのは対応不足もあるのではないか。(事務局) SDカードを持ち込むか送っていただければ郵送ケースに入れて送ることができる。このシステムを過去に行った実績があるので対応したい。
- ・眼科にかかった際、情報提供施設についての説明や宣伝がなかつた。パンフレットが置かれていても見えないからその存在すらわからない。目の悪い方に行きわたるような情報を与えて欲しい。(事務局) 県が行う市町村会議でパンフレットを配布しているが末端までは届いていない。眼科医へのパンフレット配布等はささだんごネットでやっているが、更に普及の方法を考えたい。

- ・窓口に来れる方はパンフレットを配れるが、孤立している方にどうやって届けるかを一番に考えてもらいたい。高齢化と予算の問題の中、選択と集中をしていただきたいことを要望とする。
- (事務局) 広報不足については巡回ミーティング等会議の間でもあがっている。印刷費がかかり県も協会も金が無いことから届けられないのが現状である。

3 情報アクセスの保障に関すること

【質問】

- ・パソコンの使い方が分からない時、センターで対応してもらえるのか。
- (事務局) 来館していただくか、自立支援室の協力がある。移動の問題もあるので相談していただければ訪問することも可能。

【意見・要望】

- ・新しい情報機器の進歩に対応することが喫緊の課題となっているが、ICTボランティアの養成については福祉以外の方をいかに取り組むのか課題である。
- (事務局) 情報機器の関係は他の部門でも行っているので協力をあおぐことも考えて行きたい。
- ・オアシスの職員も高齢化で、大学生のボランティアを頼りにしている。また、当事者同士がボランティアとしての役割を担うことが大切。
 - ・職員が機器の操作に時間を要するとあるが、その辺についてオアシスと情報センターが話し合う必要がある。
 - ・オアシスでは実際に使う人が次の人に教えるシステムができており、当事者の生きがいにもつながっている。

4 点訳・音訳ボランティア等の育成及び養成

【意見・要望】

- ・点訳・音声訳の連合会は自主的運営に心がけて行くが今後とも連携をお願いしたい。
 - ・パソコンで点訳をやるようになり機器やソフトの入れ替えがボランティアにとって自費となり個人の負担が大きく、製作ではなく校正を行う人が増えてきている。
 - ・若い人が増えるよう市での企画や学校の授業の中で紹介をしている。興味湧いても一本立ちに3年はかかる。職業としての点訳が成り立たないのか。今のままで良いのか不安がある。
- (事務局) 音訳の会議で説明したが、パソコンでの音質も良くなり、聞く側が声を選ぶ権利もある。また、巡回ミーティングを行うとボランティ

アは仕事は来ないと言い、当事者は別の方法で利用していると言い、需要と供給がうまくかみ合っていない、堂々巡りの状態が続いており、あり方検討会等をぜひどこかで幅広くやっていただきたい。

- ・事業報告をお聞きするとこれほどボランティアの皆さんに頼っているのかと驚いた。他県でも同じ状態なのか熱心な皆さんに支えられている。
- ・後継者不足については民間事業もどこも同じ状態で予算も人材も限られて行く中でセンターとして多くの課題が挙げられているがどこに重点を絞っていくのか。
- ・点字、音声図書は他の図書館と融通しあうとかできないか。
(事務局) 図書製作は全国で行っている、当センターでどこまで製作して行くのか今後考えていく。

5 関係機関、団体等との連携

【質問】

(事務局) 事業の紹介等について、新聞での「県からのたより」やテレビ広報に取り上げてもらうことは可能なのか。

(県 障害福祉課) 新潟日報日曜版やNT21 等で行なっている番組にエントリーして広報公聴課が選択することになる。

【意見・要望】

- ・読書バリアフリー法に関連して視覚障害者以外の利用者の方まで対応することは大変なことと考える。想定をしてもらっても良いが限られた予算と人の中で集中していただく部分を決めていただかないと大変。
- ・窓口に来れる方はパンフレットを配れるが、孤立している方にどうやって届けるかを一番に考えてもらいたい。高齢化と予算の問題の中、選択と集中をしていただきたいことを要望とする。
(事務局) 引きこもりについてどこまで把握できるか分からないが、各地域の協会支部等で掘り起こしが可能かどうか。家族からのお話もあるが、利用者増にもつながる話であり皆さんと共に知恵を絞っていききたい。

(新潟県視覚障害者情報センターとりまとめ)